

山中溪歴史街道(熊野古道)ウォーキングマップ



◇歴史街道ウォーク

自然の渓谷美と数々の史跡・旧跡が残る山中溪。古くは熊野詣での旅人たちが賑わい、紀州徳川公が参勤交代時に本陣をかまえたという山中宿本陣跡や、宿場町の風情を残した建物、山中関所跡など、往時の盛況さが偲ばれる建造物などが地域の人々により守り伝えられています。



山中溪歴史街道(熊野古道)ウォーキングマップ

阪南市商工観光課 〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町 35-1
TEL072-471-5678・FAX072-473-3504
URL <http://www.city.hannan.osaka.jp>

阪南市商工会 〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町 35-4
TEL072-473-2100・FAX072-473-0551
URL <http://hannan-sci.jp/>

平成 18 年 10 月作成

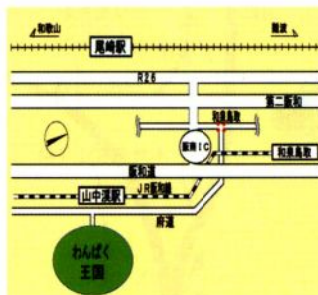
歴史街道

山中溪へは…

- ・ 電車で JR 山中溪駅まで
- ・ JR 阪和線 山中溪駅下車すぐ
- ・ お車で わんぱく王国駐車場まで

(大阪方面から)
近畿自動車道 泉南 IC から 15 分
阪神高速 4 号湾岸線 泉佐野南 IC から 20 分

(和歌山方面から) 近畿自動車道 阪南 IC から 10 分



◇ 山中溪周辺のハイキングコース



JR 山中溪駅を基点とした 2 つのコースがおすすめ

- ①銀の峰ハイキングコース
延長 4 km、所要時間約 2 時間のコース。第 1 パノラマからは大阪湾が見え、関西国際空港や明石大橋などが見えます。
- ②雲山峰ハイキングコース
JR 阪和線山中溪駅から、展望のすばらしい雲山峰を通り、青少年の森を抜けて和歌山県の JR 阪和線の紀伊駅に向うコースです。

ウォーキングコース (モデルコース)

JR 和泉鳥取駅から JR 山中溪駅前わんぱく王国を経て和歌山県との県境、境橋まで

- JR 和泉鳥取駅—①波太神社伏拝の鳥居—②琵琶ヶ岸懸—
③地藏堂王子跡—④馬目王子跡—⑤山中小学校跡—⑥筆子塚—
⑦地福寺・子安地藏尊—⑧旧庄屋屋敷—⑨山中神社—
⑩ほこらさん—⑪山中宿本陣跡—⑫道祖神(塞の神)—
わんぱく王国—⑬山中関所跡—⑭境橋 日本最後の仇討ち場

①波太神社伏拝(ふしおがみ)の鳥居

JR 和泉鳥取駅のすぐ東側に石の大鳥居がある。この地は、かつて神武天皇が東征の時に通られた地である。熊野詣での一行は、ここで小休止し、次に控える難所・琵琶ヶ岸に備えて、心の準備と装具の点検を行ったのであろう。熊野詣の途中、この大鳥居から波太神社の方角に手を合わせ参拝に代えたものだと伝えられている。



②琵琶ヶ岸懸



昔、琵琶法師が熊野詣を思い立ち、琵琶を背にこの谷まで来たとき、一陣の突風に杖をとられ山中川に転落した。法師のなきがらは川底に横たわり、愛用の琵琶が途中の崖の木にひっかかっていたという。その後、谷底を流れる水音が「コロ、コロ」と琵琶を奏するようにきこえるので、いつの間にか人々はこの谷を琵琶ヶ岸懸と呼ぶようになったと伝えられている。山中川沿いに進むこの道は、熊野参詣の難所と言われ、わずかに人ひとりが通れる程の幅で断崖絶壁であり、今は廃道となっている。

③地藏堂王子跡

地藏堂王子には、ご神体として地藏菩薩が祀られていた。安産の神として知られている。昔、熊野詣での途中であった妊婦がこの地で産気づき、お堂で横になっていたところ、通り掛かった旅の僧侶が介抱し、妊婦は無事出産したという。後にご神体は街道沿いの地福寺に移され、子安地藏尊として丁寧に祀られている。



④馬目王子跡

もともとは石の鳥居を構えた立派な社が祀られていたという。この馬目王子社は、俗に「足神さん」と呼ばれ、足の神様として崇められている。熊野詣での人々がここで足を休め、わらじを履き替え、次に進む心の準備をし、古いわらじをそなえて供養し、旅の安全を祈った。後にご神体は波太神社に合祀され、山中神社に御本体であった丸石を納め、今も立派に祀られている。

⑤山中小学校跡

明治 5 年、学制公布により各地にあった寺子屋が廃止され、明治 6 年に小学校が設置されることとなったが、山中村は通学が非常に困難であったので、当時の戸長(村長)が堺県令(知事)に掛け合い、交渉を続けた結果、この地に小学校を設置することが認められ、堺県第五十一番小学校が建てられ、後に現在の場所に移るまで 62 年間、ここに小学校があった。



⑥筆子塚

俗に、「筆神さん」と呼ばれている。この場所にあった小学校では、子供たちが手習いで使い古した筆をここに祀って、供養したものである。



地福寺のしだれ桜



子安地藏尊

⑦地福寺・子安地藏尊

明治維新の大改革で廃寺となった神光寺を明治 18 年に移築したのが、現在の本堂。本尊は江戸時代作の阿弥陀三尊像。境内を覆い尽くすほどの見事な枝のしだれ桜は、毎年 4 月上旬には満開になり、4 月 6 日に行われる「花まつり」では、甘酒が振る舞われ、歴史街道周辺の桜並木の開花と重なり、観光客でいっぱいになる。また熊野街道にあった地藏堂王子の本尊、地藏菩薩をこの境内に社を建て丁寧に祀っている。近郊では安産の神として有名で、遠方からも参拝に訪れる人が絶えない。

⑧旧庄屋屋敷

江戸時代中期の建物で、(築後 250 年以上、一部補強改造)当時の庄屋の屋敷。数多くの部屋に広い土間、太い梁の木組み、土蔵などがあり、泉州屈指の屋敷であったと思われる。今も民家として使用されており、内部の公開はされていないが、外観からも十分うかがい知ることができる。



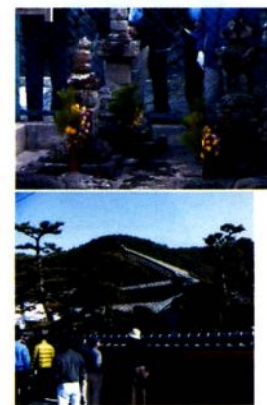
⑨山中神社

1079 年(承暦 3 年)、澤四郎善眞が紀州の岡崎より信仰する八王子神(あまのひほの命)をもって山中村に移り住み、この地にお祀りした。後日、当地西北にある高山の頂上に社(八王子神社上之宮)を建てお祀りした。この山中神社には、上之宮より移祀した八王子神(十一面観音)と、馬目王子(熊野九十九王子の一社)の 2 つの社がある。1613 年(元和 3 年)頃、この観音は盗難にあったが、いつの間にか元の社に返されたと言う。



⑩ほこらさん

このあたりには尼寺があり、この 3 基の墓は僧侶のもので、他の一基は蛇塚といわれている。新道ができるまでは土壁の西に南向きに着てられていて、土壁沿いの小道は、八王子神下之宮への参道であった。村人からは親しみを込めて「ほこらさん」と呼ばれている。このほこらさんにお参りすると、健康で頭がよくなると言われていて、今も花や線香が供えられ、お参りが絶えない。



⑪山中宿本陣跡

紀州公の参勤交代時に使用する旅籠、即ち本陣があった跡地。現在個人宅となり、建物は建て替えられているが、この周囲の土壁、広大な庭の老木、正門前の幅広い溝など、往時の盛況さが偲ばれる。

山中溪の史跡をたずねる



⑬道祖神(塞の神)

山中溪集落の南入口に平石を屋根にした道祖神が祭られている。これは、街道を往来する人々の旅の安全を祈願してつくられたものである。また、集落(村)内に病氣や災いが入ってこないようにという願いを込めた「塞の神」でもある。



⑭山中関所跡

山中の地は熊野街道の要所で、東西から山が迫り、間に川が流れ、関所を設けるのにふさわしい場所であったようである。南北朝時代の岸の和田氏の一族、橋本正高氏がここに関所を設け関銭を課した。この関銭は、河内の観心寺の法華堂を造営するために使われたものと思われる。



⑮日本最後の仇討ち場



1857 年(安政 4 年)、土佐藩士主廣井大六は、同藩士棚橋三郎と口論の末、切り捨てられた。大六の一子・岩之助は、当時、江戸に申し出て、いわゆる「仇討ち免許状」を与えられた(安政 5 年)。岩之助は、加太に潜んでいた三郎を発見し、紀州藩へ改めて仇討ちを申し出たところ、紀州藩としては、「三郎を国ばらいとし、境橋より追放するので、仇討ちをしなれば、境橋付近、和泉側ですべし。」と伝えられた。

1863 年(文久 3 年)岩之助は、境橋の北側で三郎を待ち受け、見事に仇討ちを果たしたとされている。これは日本で許された最後の仇討ちと伝えられている。

わんぱく王国



JR 山中溪駅よりすぐ。恐竜テーマトドンの形をしたローラー滑り台が子供たちに人気で、その他、複合遊具、わんぱく岩、芝生広場などを設けています。和泉山脈の自然の中で、大いに森林浴を満喫できる憩いの場として親しまれています。春の桜の開花時には、山中溪桜祭りが市民主導で開催され、周辺の桜並木と共に訪れる人々を楽しませてくれます。

開園時間 AM9:30~PM4:30 (第3水曜日は休園)
(6/1~8/31の間はPM5:00まで開園)